

○原子力事業所見学会への参加

茨城県の「緊急被ばく医療関連情報連絡会」が平成30年度活動の一環として、12月4日及び5日に実施した原子力事業所見学会に、同連絡会からの協力依頼に基づき「その他の協力活動」として参加した。

視察施設は東京電力(株)福島第一原子力発電所で、東海ノアからは、4日に4事業所から13名が、また5日には6事業所から10名が参加した。

見学会(視察)は、福島県双葉郡富岡町にある廃炉資料館に集合し、本人確認、概要説明等を受けた後、国道6号を経由して約20分をかけて移動用バスで福島第一原子力発電所まで移動した。入退域管理棟において一時立入者カードを貸与され、入域準備を整えた上、構内専用バス内から福島第一原子力発電所構内の現場を視察した。

現場視察は、多核種除去設備、1～4号機外観、地下水バイパス設備、4号機原子炉建屋、陸側凍土遮水壁設備、サブドレイン設備、6号機非常用ディーゼル発電機、雑固体廃棄物焼却設備、固体廃棄物貯蔵庫、乾式キャスク仮保管設備、免震重要棟、高性能多核種除去設備などを、東京電力からの説明を交えて約50分程度かけて順次巡った。その後、身体汚染検査や被ばく線量の確認を行い、異常ないことを確認し、移動用バスで廃炉資料館に戻った。最後に質疑応答等を行い、予定通りに視察を終了した。



富岡町の様子



多核種除去処理水
貯蔵用タンク



ガレキ撤去中の1号機

以上